サンタさん姿を見せて

捜索チームが再始動

聖夜、目撃情報を収集へ

Vol.1

長きにわたって存在が明らかになることはなかった"サンタクロースは実在するのか――"。昨年11月、「サンタクロースはいる」と信じる子どもたちの声を受け、北海道新聞社広告局はどうしん夢プロジェクトの一環として"どうしんサンタ捜索チーム"を発足。朝刊広告企画で4回にわたり、サンタクロースの実在を示唆する情報や写真を公開し、大きな反響を呼んだ。子どもたちの夢と希望を背負ったプロジェクトが、今年もいよいよその活動を開始する。

徹底した捜索と検証を

子どもから大人まで誰もが心待ちにしているクリスマス。真っ赤な服に太った白ひげのおじいさんがその夜にプレゼントを運んでくる姿は、絵本やクリスマソング、そして多くの人々の心の中にあるが、サンタクロースの存在の真偽をめぐっては、数百年にわたり議論されてきた。

サンタクロースがクリスマスイブの夜中に煙突から家へ入り、クリスマスツリーの下や靴下の中にプレゼントを残していく。こういったイメージは、ヨーロッパの言い伝えをもとに、アメリカで19世紀に生まれたもので、世界中のクリスマスの風習に影響を与えてきた。4世紀頃、現在のトルコに実在したキリスト教司祭・聖ニコラスが、サンタクロースのモデルになっているという説は、現在のサンタクロース論争の中で主流となっている意見の一つといわれている。

サンタクロースの実在を強く訴える人々がその根拠とするのは、世界中の子どもを中心としてサンタクロースの目撃情報が後を絶たないことや、各国の政府機関、専門機関がその存在を肯定すると読み取れる情報を公開していることにある。例えば、約2000年前に北アフリカの子どもたちが赤い服を着た老人から贈り物を受け取った記録が残されているほか、オーストラリアの先住民に伝わる北からやって来る空飛ぶ男の伝説など、数多くの文献にサンタクロースと思われる人物の記載が残されている。また、アメリカの政府機関である「NORAD（北米航空宇宙防衛司令部）」と「NASA（アメリカ航空宇宙局）」でもサンタクロースを追跡するプロジェクトが行われている。1975年からサンタクロースに関する研究を進めてきたサリバン・ウィリアム博士は「多くの歴史データと各機関の極秘資料などから導き出される結論は、サンタクロースが実在し、世界中で愛されているということだ」とサンタクロースの実在に肯定的な見解を示している。

「今年の冬こそ」

語気を強めるチームメンバー

どうしんサンタ捜索チーム

どうしんサンタ捜索チームは、昨年11月に発足。サンタクロースの目撃情報を広く収集するとともに、札幌上空の飛行体を監視するライブカメラを設置。調査経過を北海道新聞朝刊広告企画で4回にわたって報告した。11月28日、さっぽろテレビ塔（札幌市中央区）付近で撮影された「そりを引いたトナカイらしき影」の写真を掲載。12月14日には、さっぽろテレビ塔の展望台屋上で発見された「巨大な足跡」の写真を公開。さらに12月25日には、ライブカメラが捉えた「テレビ塔の上空を横切るサンタらしき飛行体」の映像と、25日未明に札幌円山動物園（同区）に突如出現した飛行体と「サンタから動物たちへのプレゼント」についての情報を紹介した。また、捜索状況などを北海道新聞社ホームページ内の特設Webページで公開。サンタクロースの母国とされるフィンランド、ノルウェー付近を出発し西進、ニュージーランド、オーストラリアなどを経て日本列島、北海道上空を通過するまでの軌跡を主とめるなど、サンタクロースの行動を明らかにする手掛かりをつかんだ。しかし、サンタクロースをはっきりと捉えた写真、映像など決定的な証拠の入手には至らず、その解明は今年以降の活動に持ち越された。

どうしんサンタ捜索チーム関係者は「徹底した捜索と検証を通じて、今年こそサンタクロースの謎を解くことで、子どもたちにとってのクリスマスの意味を再発見してもらいたい」とプロジェクトの意義を語るとともに、サンタクロース捜索への意欲を見せた。

実在の証拠を昨年入手

北海道四季劇場の屋上にレーダー検討

トナカイの飛行を捕捉へ

「トナカイレーダー」設置が検討されている「北海道四季劇場」＝札幌市中央区大通東1－10

どうしんサンタ捜索チームは、高性能ライブカメラを導入し、札幌市内各所に設置を予定するほか、昨年活躍した「トナカイレーダー」を稼動することが明らかになった。

レーダーは、サンタクロースの移動手段として知られる"赤鼻のトナカイ"から発せられる特殊な熱を感知することでサンタクロースの行方を追うもの。技術革新によって小型化に成功し、光速の動きも捉えるという。関係者は「サンタクロースの飛行速度は時速150㌔から3万㌔程度。昨年は、彼の動きが速すぎてセンサーが感知不能になった時間があった。今年こそは正しいデータを取りたい」と語気を強める。

また、別の関係者によると、トナカイレーダーの設置場所は、北海道四季劇場が有力。同劇場の屋上には、レーダーを設置する十分な広さがあり、電波などの干渉を受けにくいことから適しているという。同チームでは、今後の設置実現に向けて北海道四季劇場に交渉する見込み。「北海道四季劇場は、今年3月27日（日）からミュージカル『ライオンキング』をロングランで上演しており、間もなく通算入場者数が20万人を突破する人気スポット。昨年サンタの手掛かりが残されたさっぽろテレビ塔からも近い。多くの人々に夢を与える場所である同劇場に、サンタクロースが来る可能性は高い。ここで有力な手掛かりをつかめたら」と意気込みを語る。

クリスマスの願いは「万全の体調で舞台を務めること」

『ライオンキング』子役にインタビュー

本田大河（ほんだたいが）君
2000年生まれ。札幌市出身。2歳からダンスを始める。さまざまな種類のダンスレッスンを積ね、大会で優勝した経験もある。将来の夢はシンバ役ができるような立派な俳優になること。

クリスマスまであと1カ月に迫り、子どもたちはサンタクロースにどんな思いを寄せているのか――。子どもたちの思いを調査すべく、どうしんサンタ捜索チームは、トナカイレーダーの設置を検討している「北海道四季劇場」へ行き、ミュージカル『ライオンキング』に出演中の本田大河君（11）に話を伺った。

本田君は主役の子ども時代である"ヤングシンバ"役のひとりとして出演。好奇心旺盛なライオンの子どもという役柄で、多くの人々に夢を与えている本田君に、サンタクロースについて尋ねた。「僕はサンタさんはいると信じています。クリスマスツリーの下にそっと隠しておくと、クリスマスの朝、ツリーのところにプレゼントが届いているんです。毎年、手紙に書いた通りのプレゼントが届くので、サンタさんは確かにいて、僕の願いが通じているのだと思います」と、力強い言葉で語ってくれた。また、「お母さんから『サンタさんに迷惑を掛けないように、お願いの手紙は早めに出しなさい』と言われています。今年もそろそろ書かないといけないんです」。『ライオンキング』の作中で、未来のライオンの王を演じるだけあって本田君の言葉に責任感の強さも感じられる。

サンタへのお返しは舞台で

今年のサンタクロースへの願いは何かという問いには「年内も万全の体調で舞台を務められること」と、本田君は笑顔で答えた。本作品がミュージカル初挑戦だった本田君は、朝から晩まで劇団でレッスンを積んだあと、家でも練習を重ねたという。その分、劇団やこの作品への思いは強い。「初めて『ライオンキング』を見たとき、こんなふうに動物や大自然を表現できるのかと感動しました。舞台装置だけでなく、キャストの方々の動きもすごいんですよ。もちろん物語自体も大好きです。この作品に"ヤングシンバ"として関われることだけでも幸せなことですが、サンタさんから万全の体調というプレゼントをもらえるといいなと思っています」。お気に入りのシーンは、父親（ムファサ）と一緒に草原を駆け抜けるシーン。「大自然を走るのがとても気持ちよくて好きですね。サンタさんもクリスマスの夜、トナカイたちと夜空を走って気持ちいいんだろうなと思います」と瞳を輝かせる。

©Disney

"ヤングシンバ"として舞台で活躍する本田君（撮影：荒井健）

また、サンタクロースへのメッセージを尋ねると「僕はもちろんですが、お客さまもきっとサンタさんに会いたいと思われているのでは。クリスマスには、ぜひトナカイたちとこの劇場にも来てほしいです」と話した。最後に、読者にもメッセージをくれた。「クリスマスの思い出に、ぜひ『ライオンキング』を見に劇場にお越しください。どの世代の方も何度見ても、お楽しみ頂ける舞台だと思います。今年、僕がもしクリスマス期間中に舞台に立つことができたら、多くの方々に感動をお届けするために精いっぱい頑張ります。一人でも多くの方に、作品の感動を味わって頂きたいです」。ミュージカル『ライオンキング』は、12月2日から25日までの間「クリスマス特別カーテンコール」を行うという。期間中は混み合うことも予想されるが、クリスマスの特別なひとときを、夢と感動の舞台を見ながら過ごしてみてはいかがだろう。

どうしん夢プロジェクト 広告企画

企画制作／北海道新聞社広告局

この広告企画はお子さまと楽しんでいただくため、夢のある構成となっています。フィクションを多く含みますがご了承願います。次回は12月上旬朝刊予定

（C）北海道新聞社　無断転載、複製及び頒布は禁止します。